



通信

HP 学校だより
R6. 12. 17
NO. 33
文責 伊藤美佳



学びの足跡

豊坂小学校では、子どもたちが学んだことを地域の方々や保護者の皆さん、他の学年の子どもたちに発信し、そこから感想をもらったり、意見をもらったりして、学びをより深める「双方向の発信」を推進しています。ナスを販売したり、西山森の道整備隊への勧誘チラシを作成して学芸会で配付したり、様々な方法で発信しながら、返ってくる感想や意見を学びの一つとして受け止め、次に生かすようにしています。

さて、3年生は「推しの場所」「推しの店」を紹介したり、「推しの店」に提案したりする活動を行っています。3年2組は、国語科の学習で作成した「わたしの推し新聞」を幸田町立図書館の1階「児童図書コーナー」の壁に掲示させていただいています。（1月末まで掲示予定）新聞作りについて学んだことを生かして自分の「推しの場所」を読み手に伝わるように工夫した作品となっています。たくさんの方に読んでいただき、子どもたちにフィードバックしていただけることで、学びがより深まることを期待したいです。3年1組は、社会科で見学させていただいたお店の中で、自分が大人になってもあって欲しいという「推しの店」を決めました。その「推しの店」が、10年後も豊坂学区で営業してくれているために、どんな工夫が必要かを考えました。そのアイデアをお店に伝える活動を行います。また、3年3組は、理科で学んだことを生かして作成した磁石の釣り堀を3、4年生に試してもらいました。磁石の性質を生かしたものづくりができているか、理科で学んだ子たちに審査してもらい、自分たちの学びを確かなものにしていました。このように、学んだことを生かして考えたことを提案し、その結果を自分たちで確認することで、学びが深まると考えます。

高学年で行っている家庭学習の「自主学習」もその一環といえます。これからは、「自分で学びたいことを見つけ、学ぶ」、そういう形の学びがもっと多くなっていきます。

「強い人」について考える

4日から10日までは人権週間でした。朝会でも子どもたちに人権についてのお話をする機会があり、今年の人権週間ポスターに書かれている「誰かのこと じゃない」について考えてもらったり、金子みすゞさんの詩を伝えたりしました。

そこから数日たっていましたが、ある新聞記事を読んで再度「人権」について考えることができました。その記事には「強い人」という題がついていて、「気がついた 強い人とは 本当は 心優しい 人を言うんだ」という短歌から始まっていました。その記事を書いた方は、短歌の中の「心優しい人」を「他者の痛みを想像する力を持つ人かもしれない」と考えていました。

SNSなどで、顔が見えないからといって人を傷つける言葉や間違った情報を流すという行為が横行していることが社会問題となっています。他者の痛みを想像できたら、そういった行為はできないはずです。「いじめ」も全く同じことだと考えます。他人を傷つけ、その人の人権を奪っていることに気づいていない人がいたら、「どうする」と「誰かのこと じゃない」自分事として考えてみてほしいです。答えのない問いかもしれませんが、自分事として考えることが大切なのだと思います。